

航空機部品 共同受注へ

6社がグループ設立

県内の機械部品製造など6社が21日、成長が見込まれる航空機産業への参入を目指し、「県航空機部品共同受注グループ（仮称）」を設立した。各社の強みを生かしながら連携し、大手メーカーの「複数製造工程をまとめて発注し、コスト削減を図りたい」といった要望に応えることで、受注獲得につなげていきたい考えだ。

グループに参加したのは、アイティオ（魚津市）、石金精機（富山市）、タア



航空機産業への参入を目指す「共同受注グループ」の設立総会が開かれた（21日、富山市大手町の富山国際会議場で）

フ（同）、立山マシン（同）、ユニゾーン（同）、タナカエンジニアリング（同）の6社。それぞれ機械加工や表面処理などに強みがあり、製造工程で連携する体制を整えるほか、グループで一体となって営業活動を展開していく予定だ。航空機産業の展示会への参加も検討している。

国産初のジェット旅客機「MRJ（三菱リージョナルジェット）」に部品を納入している石金精機の清水克洋社長が発起人となり、グループの会長に就任した。清水社長は「富山は共同受注に向けた動きで後れ

をとっている。何とか挽回し、『ものづくりの県』富山に航空機産業を誘致したい」と意欲を示している。

経済産業省によると、民間航空機の世界的な市場規模は、約20年後に倍増することが見込まれている。国内外の企業が成長分野への参入を目指しているが、輸送費削減や納期短縮を図りたい大手メーカーが、複数の工程を共同企業体などに一括して発注する動きが広がっており、単独での受注は難しくなっているという。

県も航空機産業の将来性を踏まえ、県内の関係企業の支援に力を入れている。2010年度から関係企業との交流会や、共同受注に向けた研究会などを実施。11年度からは部品製造に必要な国際認証の取得費用を最大100万円まで助成している。